

愛知医科大学 学報



平成26年度医学部卒業記念品
「レリーフ時計『命の雲-CLOUD of LIFE』」
(関連記事11頁)

＝ 第139号 ＝
2015. 7月

愛知県長久手市岩作雁又1番地1
〒480-1195

学校法人 愛知医科大学

愛知医科大学ホームページアドレス
www.aichi-med-u.ac.jp

■ 主な目次 ■

平成28年度学生募集概要……………	2
学生募集説明会・オープンキャンパスを実施 ……	5
平成26年度愛知医科大学決算……………	6
役員・評議員の異動……………	8
南イリノイ大学医学部短期留学体験記……………	12
平成27年度科学研究費助成事業交付決定……………	26
教育・研究最前線「衛生学講座」……………	32

平成28年度医学部医学科学生募集概要

医学部医学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学（公募制）		約25名	11/2～11/13 [消印有効]	11/21	本 学	11/26
一般入学		約65名	12/7～1/7 [消印有効]	第1次試験 1/19	本学、東京 大阪、福岡	1/25
				第2次試験 1/28・29 (いずれか希望する日)	本 学	2/4
大学入試センター試験利用入学		約15名	12/7～1/15 [消印有効]	第1次試験 1/16・17 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	2/4
				第2次試験 2/10	本 学	2/18
愛知県地域特別枠入学		8名	2/12～2/29 [消印有効]	第1次試験 1/16・17 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験会場	3/7
				第2次試験 3/10	本 学	3/17
◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
推薦入学（公募制）		小論文			5段階評価	60分
		基礎学力試験 (数学)	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』		100点	60分
		基礎学力試験 (外国語)	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』		100点	60分
		面接（個人面接）※1		5段階評価	—	
一般入学	第1次試験	理 科	『物理基礎・物理』, 『化学基礎・化学』, 『生物基礎・生物』の3科目のうち2科目を選択		200点 (各100点)	120分
		数 学	『数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B』※2		150点	80分
		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ』		150点	80分
	第2次試験	小論文		5段階評価	60分	
		面接（個人面接）※1		5段階評価	—	
	大学入試 センター試験 利用入学	第1次試験 (大学入試 センター試験)	国 語	『国語』（近代以降の文章のみ利用）		100点
数 学			『数学Ⅰ・数学A』, 『数学Ⅱ・数学B』		200点 (各100点)	
理 科			『物理』, 『化学』, 『生物』の3科目のうち 2科目を選択		200点 (各100点)	
外国語			『英語（筆記・リスニング）』		200点※3	
第2次試験		面接（個人面接）※1		5段階評価	—	
愛知県地域特別枠入学		試験内容は大学入試センター試験利用入学と同様				

※1 本学が必要と認めた者に対して、面接終了後に健康診断を行う。

※2 数学Bの出題範囲は「数列」及び「ベクトル」とする。

※3 250点を200点に変換。

平成28年度看護学部看護学科学学生募集概要

看護学部看護学科の入試日程等は次のとおりです。

◆入試日程						
区 分		募集人数	出願期間	試験日	試験会場	合格発表日
推薦入学	指定校制	約15名	10/19～10/29 [消印有効]	11/7	本 学	11/17
	公募制	約15名				
社会人等特別選抜		5名				
一般入学		50名	12/24～1/13 [消印有効]	1/24		2/5
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	10名	12/24～1/15 [消印有効]	1/16・17 大学入試センター試験日	大学入試センター 試験受験会場	2/5
	B方式	5名				
◆入試科目・配点・時間						
区 分		出題教科	選考方法及び出題科目		配 点	時 間
推薦入学	指定校制	面接			—	—
	公募制	外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	45分
		国語	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』		100点	45分
		数学	『数学Ⅰ・数学A』※1		100点	45分
		面接			—	—
社会人等特別選抜		小論文		—	60分	
		面接		—	—	
一般入学		外国語	『コミュニケーション英語Ⅰ・コミュニケーション英語Ⅱ・英語表現Ⅰ』		100点	60分
		理 科	『物理基礎』,『化学基礎』,『生物基礎』から1科目を選択		70点	45分
		国語・数学	『国語総合（古文・漢文を除く。）・現代文B』,『数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ』から1科目を選択※2		100点	60分
大学入試 センター試験 利用入学	A方式	国語・数学	『国語（近代以降の文章のみ）』,『数学Ⅰ・数学A』,『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択		100点	大学入試 センター試験 実施日程どおり
		理 科	①『物理基礎』,『化学基礎』,『生物基礎』,『地学基礎』 ②『物理』,『化学』,『生物』,『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』		100点	
	B方式	国 語	『国語（近代以降の文章のみ）』		100点	
		数 学	『数学Ⅰ・数学A』,『数学Ⅱ・数学B』から1科目を選択		100点	
		地理歴史・公民	『世界史B』,『日本史B』,『地理B』,『現代社会』,『倫理』,『政治・経済』,『倫理,政治・経済』から1科目を選択		100点	
		理 科	①『物理基礎』,『化学基礎』,『生物基礎』,『地学基礎』 ②『物理』,『化学』,『生物』,『地学』 ①から2科目または②から1科目を選択		100点	
		外国語	『英語（筆記・リスニング）』		100点	

※1 数学Aの出題範囲は「場合の数と確率」及び「図形の性質」とする。

※2 数学Ⅱの「微分・積分の考え」は出題範囲から除く。

平成28年度大学院医学研究科(博士課程)学生募集概要

大学院医学研究科（博士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

- ・基礎医学系 13名
- ・臨床医学系 17名

2 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成27年8月17日（月）から
平成27年8月31日（月）まで（必着）

試験日：平成27年10月2日（金）

試験場：大学本館3階303講義室

合格発表：平成27年10月23日（金）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施

出願期間：平成28年1月4日（月）から

平成28年1月13日（水）まで（必着）

試験日：平成28年2月5日（金）

試験場：大学本館2階202講義室

合格発表：平成28年2月19日（金）

3 試験項目・時間

試験項目	時 間
外国語（英語） 〔辞書使用可、電子辞書不可〕 ※外国人志願者の外国語試験は、英語一 か国語のみによる試験又は英語及び日本 語の二か国語による試験のいずれかを選 択する。	10：00 ～ 12：00
面接試験 （志望する専攻分野に関連する専門試験を 含む。）	13：00 ～

平成28年度大学院看護学研究科(修士課程)学生募集概要

大学院看護学研究科（修士課程）の入試日程等は次のとおりです。

1 募集人員

15名

2 教育研究分野

教育研究分野	専攻領域
広域看護学分野	看護管理学領域
	母子看護学領域
	慢性看護学領域
	精神看護学領域
	老年看護学領域
	地域看護学領域
高度実践看護学分野	感染看護学領域（※1）
	クリティカルケア看護学領域（※2）

※1 専門看護師（CNS）コース併設

※2 高度実践看護師コース（クリティカルケア〔周術期〕）のみ募集

3 入試日程

【第1次募集】

出願期間：平成27年8月7日（金）から
平成27年8月21日（金）まで
（消印有効）

試験日：平成27年9月3日（木）

試験場：看護学部棟内講義室

合格発表：平成27年9月9日（水）

【第2次募集】

注：第1次募集により定員に満たない場合のみ実施

出願期間：平成28年1月12日（火）から

平成28年1月25日（月）まで（消印有効）

試験日：平成28年2月3日（水）

試験場：看護学部棟内講義室

合格発表：平成28年2月10日（水）

4 試験科目・時間

《一般選抜》

試験時間	試験科目等
9：00～10：00	小 論 文
10：30～12：00	外国語(英語)
13：00～14：00	専門科目(専攻領域)
14：10～	面 接

《社会人特別選抜》

試験時間	試験科目等
9：00～10：00	小 論 文
10：30～12：00	外国語(英語)
13：00～	面 接

《専門看護師（CNS）コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：00	小 論 文
10：30～12：00	外国語(英語)
13：00～14：30	専門科目(CNS関連分野)
14：40～	面 接

《高度実践看護師コース》

試験時間	試験科目等
9：00～10：00	小 論 文
10：30～11：30	外国語(英語)
13：00～14：30	専門科目(関連領域の病態生理学)
14：40～	面 接

注) 外国語（英語）の試験は、辞書（電子辞書は除く。）の持ち込みを認める。

学生募集説明会・オープンキャンパスを実施



大学の概要説明

平成27年度第1回目のオープンキャンパスを平成27年7月25日（土）に実施しました。

たちばなホールでの「大学概要説明，入試説明」に始まり，レストランオレンジでの「学食体験」に加え，医学部は「キャンパスツアー」，「入学試験合格体験談」，「留学体験談」及び「研究・学会発表体験談」等を行い，看護学部は「在学生からのメッセージ」，「実習体験」等を行いました。当日は，北海道，広島県など遠方からの参加もあり，医学部は172組301名，看護学部は199組308名の609名もの多数の方々に参加して頂きました。

在学生の案内による「キャンパスツアー」においては，ドクターヘリを見学しながらのフライトドクター及びフライトナースによる説明が一番人気で，会場が賑わいました。

また，今年からはシミュレーションセンターにおける実習体験と国際交流センターの活動紹介（パネル展示）が新たに加わり，様々な体験ができました。

そして，「教職員による個別相談」では，入学試験の内容などに関する相談が多くあり，「学生との相談コーナー」では，在学生から入学試験に臨む心構えや入学後の状況等を聞く良い機会として参加された方も数多く見られました。



ドクターヘリ見学



人体シミュレータ
を使った実習体験



脳の標本観察
(加齢医科学研究所)



私の入学試験
合格体験談

国家試験日程のお知らせ

◆第110回医師国家試験

- ・試験日 平成28年2月6日（土），7日（日）及び8日（月）
- ・合格発表日 平成28年3月18日（金）

◆第105回看護師国家試験

- ・試験日 平成28年2月14日（日）
- ・合格発表日 平成28年3月25日（金）

◆第102保健師国家試験

- ・試験日 平成28年2月16日（火）
- ・合格発表日 平成28年3月25日（金）

平成26年度愛知医科大学決算

平成27年5月25日に開催された理事会及び評議員会において、平成26年度決算が承認されましたので、その概要をお知らせします。

消費収支計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:百万円)

消費収入の部			消費支出の部		
科 目	金 額	前年差	科 目	金 額	前年差
学生生徒等納付金	5,187	115	人件費	17,660	1,046
手数料	213	△6	教育研究経費	23,664	4,875
寄付金	966	99	（うち医療経費）	(20,257)	(4,135)
補助金	2,066	△1,159	管理経費	806	192
（国庫補助金）	(1,763)	(△1,113)	借入金等利息	297	65
（地方公共団体補助金）	(303)	(△46)	資産処分差額	386	△634
（学術研究振興資金）	(0)	(△1)	徴収不能引当金繰入額等	5	△10
資産運用収入	236	△54			
資産売却差額	1	△310			
事業収入	368	97			
医療収入	28,392	929			
雑収入	649	236			
帰属収入合計（A）	38,078	△53	消費支出の部合計(C)	42,819	5,534
基本金組入額合計	△114	2,895	帰属収支差額(A-C)	△4,742	△5,587
消費収入の部合計(B)	37,964	2,842	消費収支差額(B-C)	△4,856	△2,692

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

資金収支計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:百万円)

資金収入の部			資金支出の部		
科 目	金 額	前年差	科 目	金 額	前年差
学生生徒等納付金収入	5,187	115	人件費支出	17,447	967
手数料収入	213	△6	教育研究経費支出	19,129	2,753
寄付金収入	927	106	（うち医療経費支出）	(17,057)	(2,398)
補助金収入	2,066	△1,159	管理経費支出	642	149
（国庫補助金収入）	(1,763)	(△1,113)	借入金等利息支出	297	65
（地方公共団体補助金収入）	(303)	(△46)	借入金等返済支出	4,168	3,272
（学術研究振興資金収入）	(0)	(△1)	施設関係支出	7,045	△10,182
資産運用収入	236	△54	設備関係支出	2,905	△1,710
資産売却収入	1,112	△3,568	資産運用支出	2,880	△3,738
事業収入	368	97	その他の支出	3,814	428
医療収入	28,392	929			
雑収入	649	236			
借入金等収入	843	△15,605			
前受金収入	1,006	△37			
その他の収入	14,026	8,025			
資金収入調整勘定	△6,771	904	資金支出調整勘定	△5,713	△2,362
前年度繰越支払資金	8,430	△4,699	次年度繰越支払資金	4,071	△4,359
資金収入の部合計	56,684	△14,716	資金支出の部合計	56,684	△14,716

(注) 科目毎に百万円未満を四捨五入表示しているため、合計は必ずしも一致しない。

貸借対照表

平成27年3月31日現在

(単位:百万円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
科 目	金 額	前年差	科 目	金 額	前年差
固定資産	66,715	△354	固定負債	34,447	1,824
有形固定資産	54,631	4,684	長期借入金	24,098	△171
土 地	7,996	522	学校債	1,723	△220
建 物	35,934	23,560	退職給与引当金	6,270	214
構築物	1,135	121	長期未払金	2,356	2,017
教育研究用機器備品	7,770	1,541	長期前受金	0	△15
その他の機器備品	199	80	流動負債	6,085	△2,717
図 書	1,225	△197	短期借入金	844	△3,000
車 輜	12	△7	学校債	390	66
建設仮勘定	361	△20,937	未払金	3,517	270
			前受金・預り金	1,334	△53
			負債の部合計	40,532	△893
その他の固定資産	12,084	△5,037	基 本 金 の 部		
ソフトウェア	629	268	科 目	金 額	前年差
有価証券・保証金他	242	49	第1号基本金	68,263	1,500
学校債償還引当特定資産	2,113	△154	第2号基本金	0	-1,500
新病院建設引当特定資産	0	△1,500	第4号基本金	2,750	114
借入金返済引当特定資産	6,600	△4,200			
医療機器等整備調整資金引当特定資産	2,100	100			
教育研究奨励引当特定資産	400	400			
流動資産	10,325	△5,281	基本金の部合計	71,013	114
現金預金	4,071	△4,359	消 費 収 支 差 額 の 部		
未収入金	5,628	△929	科 目	金 額	前年差
有価証券・貯蔵品他	626	8	翌年度繰越消費支出超過額	34,505	4,856
			消費収支差額の部合計	△34,505	△4,856
資産の部合計	77,040	△5,634	負債、基本金及び消費収支差額の部合計	77,040	△5,634

1 概要

平成26年度は5月に開院した新病院を中心に地歩を固め、まずは財政基盤の強化・安定を図るべきとの視点に立って、事業財源を確保することを最重要課題とした。このためには、事業収入の四分の三強を占める病院収入の確保に努める必要があることから、医療の質を向上させながら医療収支の改善を図るべく病院の収入増に繋がる事業の取り組みを実施したが、5月の新病院開院準備等で4月、5月は低調となり、6月以降の奮起を期待したところであるが、帰属収支差の黒字確保には至らなかった。

一方、支出面においても効率化を図ることとし、大きなウェイトを占める人件費について、将来の事業展開に備えた人的資源の確保を図りつつ、人事院勧告に基づき本給表の改定と賞与支給率の改定を行った結果、このところ改善を続けてきた人件費率の悪化（46.4%：前年度比29ポイント増）の結果となった。医療経費については、入院電子カルテ開発（平成26年5月稼働）、新病院等建設関係費により大幅増となった。直接経費である薬品材料費（前年度比32ポイント増）及び診療材料費（前年度比5.6ポイント増）の対医療収入比率（前年度比0.2ポイント増）も若干悪化した。

こうしたことから帰属収支差は、約▲47億42百万円となった。資産売却差額・資産処分差額及び新病院に係る特殊要素（寄付金・補助金、電カル、新病院建設関係費、光熱水費、建仮振替、減価償却）を考慮した実質の収支差は、約▲5億37百万円となり、22年度以来4年ぶりの赤字となった。

2 前年度との比較（主な増減）

(1) 消費収支計算書

収入…帰属収入総額は381億円で、前年度と比較して53百万円（0.1%）の減少となった。

これは医療収入が伸び悩んだことによるものである。新病院開院準備等で低調となった4月、5月分を

埋め合わせるには至らなかった。学納金等その他の収入は概ね予算通りの計上となった。

支出…消費支出額は、428億円で前年度と比較して55億円の増加となった。

主な要因は、新病院に合わせ医療スタッフを増員したことに伴う人件費増、新病院建設に伴う減価償却額の増、更には消費税率変更による負担増によるものである。

(2) 資金収支計算書

施設関係支出は、新病院建設工事等が55億円で、全体では70億円となった。設備関係支出は、新病院建設関係費12億円を含んだ教育研究用設備等更新費が25億円で、全体では29億円となった。

(3) 貸借対照表

資産総額は、770億円で前年と比較して56億円の減少となった。また正味資産（基本金+消費収支差額）は、前年度と比較して47億円減少の365億円となった。これは新病院建設に伴う建設仮勘定の減少によるものである。

3 最後に

愛知医科大学は、「社会から評価され、選ばれる大学」を基本方針とし、社会情勢、医療環境の変化に迅速に対応し、教育・研究・診療にかかる全ての領域において、更なる飛躍のための新たな改革実現に取り組んでいきます。

団塊世代が後期高齢者となる2025年を控え、社会保障費の増加を抑制するための医療制度等の矢継ぎ早の改革に乗り遅れることなく、広い視野から中長期的な経営戦略と戦術を構築して、地域社会に貢献し続ける愛知医科大学を目指し、今後も職員一同全身全霊を尽くしてまいります。

なお、詳細についてはホームページをご覧ください。
<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su01/su0105/index.html>

役員・評議員の異動

平成27年5月25日（月）の理事会及び評議員会が開催され、次のとおり理事・評議員の選任等を行いました。

【理事】

辞任 細川秀一（平成27年5月31日付）
選任 土井清孝（任期：平成27年6月1日～平成28年1月27日）

【評議員】

辞任 細川秀一、石川清道（平成27年5月31日付）
選任 櫻井 敏、山中智津子（任期：平成27年6月1日～平成28年1月27日）

医学部父兄後援会・父兄互助会平成27年度定期総会開催

新会長に土井清孝氏を選出



平成27年5月24日（日）午前10時から、大学本館301講義室において平成27年度愛知医科大学医学部父兄後援会・父兄互助会定期総会が開催されました。

平成26年度父兄後援会及び父兄互助会の事業報告及び決算報告、平成27年度役員改選に移り、会長の土井清孝氏【写真】を始め総勢19名の新役員が選出されました。

土井新会長のあいさつの後、平成27年度事業計画及び予算案が原案どおり承認されました。

総会終了後は、三宅養三理事長、岡田尚志郎医学部長、細川好孝教務部長、道勇学学生部長、島田孝一法人本部長からそれぞれあいさつがありました。

なお、昼食を挟んで、午後1時20分から4～6学年次生のご父兄を対象に国試懇談会が開催されました。

看護学部父母会平成27年度定期総会開催

新会長に山中智津子氏を選出



平成27年5月16日（土）午前10時から、看護学部棟N301講義室において看護学部父母会の平成27年度定期総会が開催されました。

石川清道会長のあいさつの後、議事に入り、平成26年度の事業報告及び決算報告が原案どおり承認されました。続いて役員の改選が行われ、新会長に山中智津子氏（4学年次生父母）が、また、新役員として他に18名の方々が選出されました。その後は新役員によって議事が進行され、平成27年度の事業計画案及び予算案が原案

どおり承認されました。

議事終了後、衣斐達看護学部長及び八島妙子教務学生部長から来賓あいさつがあり、盛会のうちに定期総会は無事終了しました。

また、定期総会に引き続いて、父母と大学教員との学年別懇談会が開催され、大学側からは各学年の主任、副主任が出席して、活発な意見交換等が行われるなど、大変有意義な会となりました。

なお、この懇談会は、父母会と大学の双方が定期的に情報交換・意見交換等を行うことにより、学生生活全般の向上を図ることを目的として毎年行われています。

本院病院病理部元技師長の水野義己さんが平成27年春の叙勲において、瑞宝双光章を受章され、平成27年5月13日（水）国立劇場大劇場において伝達式が行われ、皇居において、天皇陛下のお言葉と拝謁を賜りました。心からお祝い申し上げます。

水野元技師長は、本院の病理検査業務に38年間の長きにわたり精励され、病院病理部の発展に寄与し、現在も再任用職員として後輩の指導に努められています。本学開設間もない時期には、最低限の機器類しか揃わない暫定病院の検査室の片隅で、一人で組織標本を作製する厳しい状況下から病院検査室を立ち上げられ、その後の本院の発展の中では、検体数の増加に対し、正確さと同時に迅速性の求められる病理診断業務のための業務体制強化に努められました。

また、長年にわたる功績により平成19年に日本細胞検査士会から功労賞、平成23年には日本臨床細胞学会から貢献賞を受賞されています。

授与された水野さんから「この度、臨床検査技師・細胞検査士としての保健衛生功労にて、思いがけず叙勲の



記念撮影
三宅理事長（左）と水野元技師長（右）

栄に浴しました。細胞検査士の業績が認められ大変嬉しく思います。受章できたことは、ひとえに皆さま方からの長年にわたるご指導、ご支援の賜物と深く感謝しております。この栄誉に恥じないように、今後も細胞検査士として精進していきたいと思います。愛知医科大学の一層の発展と皆さまのご活躍に期待しています。」と感想がありました。

平成27年度愛知医科大学公開講座

行ってみよう！聴いてみよう！医科大学の公開講座
～体のトラブル対処法～

本学では、教育・研究を広く社会に開放し、地域社会の教育・文化向上に寄与することを目的として、公開講座を毎年度開催しています。平成27年度の公開講座は、テーマを「体のトラブル対処法」と題し、9月12日（土）から毎週土曜日の計3回にわたって開催することとなりました。

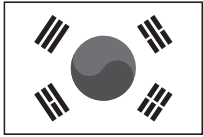
受講方法及び内容等は次のとおりです。

【受講方法】

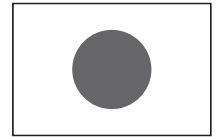
- | | | | |
|--------|------|------|-----------|
| ・受講対象者 | 一般市民 | ・会場 | 本学たちばなホール |
| ・募集人数 | 400人 | ・申込先 | 公開講座1係 |
| ・受講料 | 無料 | | |

【内容等】

開催日	講演時間	テーマ及び講師
9月12日（土）	10：00～12：00	もしも尿検査で異常と言われたら… 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授 三浦 直人
		慢性腎臓病について 腎臓・リウマチ膠原病内科 助 教 吉野 雅文
9月19日（土）	10：00～12：00	痛みと漢方 運動療育センター 准教授 新井 健一
		身体と心から見た痛み 学際的痛みセンター 教 授 西原 真理
9月26日（土）	10：00～12：00	子どもからお年寄りまで睡眠改善健康法 小児看護学 教 授 下村 明子
		快眠健康法－自分でできるリラックス体操－ 小児看護学 講 師 赤荻 純子 小児看護学 助 教 神谷 美帆



国際交流 東亜大学校医科大学と学術国際交流協定締結



本学では、平成27年6月に韓国東亜大学校医科大学と学術国際交流協定を締結しました。

協定の内容は、学生の交流などを中心とした活動となっており、今後交流方法など詳細を調整の上、具体的な交流を開始する予定です。

本協定の締結については、医学部眼科学講座の柿崎裕彦教授（特任）が長年にわたり同大学の教員と共同研究

を行うなど親密な関係を構築されており、これを講座に留まらず大学同士の関係へと発展させることとなったものです。

なお、本学では、医学部と看護学部において、それぞれ3大学と学術国際交流協定を締結しており、東亜大学校医科大学は、大学全体として7大学目の協定大学となります。

科学研究費助成事業執行方法等学内説明会開催

平成27年7月6日（月）～8日（水）の3日間、大学本館305講義室において、科学研究費助成事業執行方法等の学内説明会が開催され、計74名の出席者がありました。

この学内説明会は、科研費の研究代表者及び研究分担者を対象に、科研費制度に関する理解向上と不正防止等の徹底を図ることを目的に毎年開催しているものです。今年の説明会は2部構成で行われ、第1部では、研究支援課の古山昂勢主事から、科研費に係る今後のスケジュール、補助金制度と基金制度の相違点、ルール改正、学内執行ルール、科研費遂行の留意点、納品検収制度及び最近の研究費不正使用に関する事例についての説明がありました。

続いて、第2部では、同課の多々良英矢主査から、公

的研究費の取扱いに関する本学の取り組みについて説明があり、科研費の適正な執行と管理に向けて意義のある説明会となりました。



先制・統合医療包括センター福沢嘉孝教授 長久手市吉田一平市長と対談

平成27年6月11日（木）長久手市役所において、本院先制・統合医療包括センターの福沢嘉孝教授が吉田一平長久手市長を訪問し、対談を行いました。

同センターは、全国の大学病院では初となる遺伝子検査の専門外来として、平成27年5月14日に開設され、未病の段階からのリスク診断を行い、病気にならないように早期から予防する検査を実施しています。

今回の対談では、福沢教授から同センターのマナー（mRNA）健康外来について、検査方法や検査結果などについて紹介がありました。



対談する吉田市長（左）と福沢教授（右）

レリーフ時計「命の雲—CLOUD of LIFE」寄贈

平成26年度医学部卒業生からの卒業記念品として、中央棟オアシスホールに光本岳士氏作レリーフ時計「命の雲—CLOUD of LIFE」が寄贈され、平成27年5月11日（月）に除幕式が行われました。

当日は三宅養三理事長、佐藤啓二学長、岡田尚志郎医学部長を始め本学役職者、平成26年度卒業生代表の北野礼奈さんが出席しました。

北野さんからは、「私たちは新病院で実習した初めての卒業生なので、患者さんを最初に迎える新病院の玄関に卒業記念品を贈ることができて嬉しいです。」と贈呈の言葉があり、佐藤学長からは、「命が生まれて循環するDNAをイメージしたオアシスホールにピッタリの素晴らしい時計をご寄贈頂きありがとうございました。新病院の第1回卒業生とも言える皆さんが成長する姿を楽しみにしています。」とのお礼のあいさつがありました。



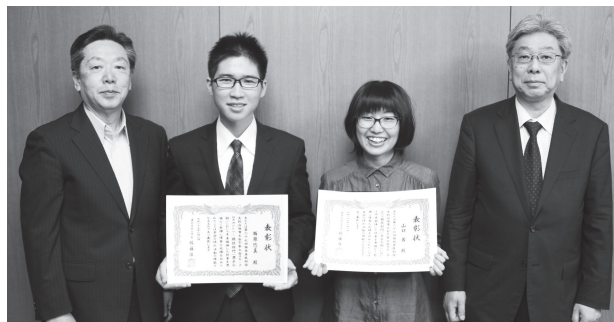
いつまでも大切にさせていただきます。ありがとうございました。

学生表彰

平成27年3月22日（日）から3月29日（日）にかけて、長野県菅平高原スキー場で開催された第67回西日本医科学生総合体育大会冬期大会において、医学部3学年次生の西原悠真さんがクロスカントリースキー男子10kmと15kmで、医学部6学年次生の山口茜さんがアルペンスキー女子大回転とスーパー大回転でそれぞれ優勝するという快挙を遂げました。

他の学生の模範となるこの成績を評価し、平成27年6月3日（水）に、佐藤啓二学長から表彰状と記念品が贈呈されました。

今後も、文武両面で、表彰される学生が続くことを期待します。



記念撮影
(中央左：西原さん、中央右：山口さん)

熱中症予防の講演会開催

平成27年6月17日（水）午後5時30分から大学本館たちばなホールにおいて、主に運動クラブ加入学生を対象に、地域救急医療学寄附講座の井上保介教授（特任）及び大塚製薬株式会社石田晋也氏による熱中症予防の講演会が開催されました。

井上教授（特任）からは「熱中症の予防及び手当について」と題して、今やインターネット上では熱中症予防について、十分に知識が得られるので、知らなかったでは済まされないこと、また、お茶や水などの水分補給だけでは、体のミネラルが補充されないため、結果的に体液が不足する状態になってしまうことなどの話があり、石田氏からは「上手な水分補給で防ごう熱中症」と題して、効率的な熱中症の予防には適切な飲料で体液を補充することが必要であること、予防の飲料と熱中症になってからの飲料は別であることなどについてご講演頂きました。

折しも、これからが熱中症の本番の時期であり、8月初旬から大阪で開催される第67回西日本医科学生総合体



育大会（西医体）に向けて、クラブの練習も夜間から日中に移行する時期となるため、参加した約400名の学生も真剣に耳を傾けている様子でした。

この講演会で得た知識を活用して練習や試合に臨み、安全かつ効率的な活動を行い、西医体の上位入賞を期待します。

南イリノイ大学医学部短期留学体験記

本学では、現在南イリノイ大学（SIU）医学部と学生交換を含む包括的な相互交流を行っており、この交換プログラムの一環として、臨床実習選択（Elective）コースと2学年次カリキュラム受講（PBL）コースの二つのコースへ本学医学部学生を派遣しています

平成26年度のプログラムとして、Electiveコースへ平成27年1月31日（土）から3月29日（日）まで2名、また、PBLコースへ3月14日（土）から4月5日（日）まで7名の学生が留学しました。この留学を終えた学生から寄せられた体験記をご紹介します。

「SIU臨床実習選択コース」への派遣者

医学部6学年次生 服部 恵

私は南イリノイ大学（SIU）医学部Electiveコースに参加し、一般外科と救急救命科を回りました。一般外科ではSIUの3年生と一緒に朝の回診、カンファレンス、手術に参加しました。救急救命科では指導医や看護師に付き、患者さんの問診やバイタルサインをとる等をしました。日本での実習でも自信を持って問診をしたり、カンファレンスで発表をしたりすることは難しく、それを英語で行うことに初めは慣れず戸惑うこともありましたが、指導医や学生の手助けもあり、帰国直前には自信を持って問診等を行うことができるようになりました。この経験をもとに、今後も更に様々なことに挑戦していきたいと思います。



服部さん（左から6人目）

医学部6学年次生 野々部 恵

今年の2～3月、アメリカ南イリノイ大学医学部においてElectiveコースの留学プログラムに参加させて頂きました。以前から憧れていた海外での臨床実習で不安や苦勞もありましたが、たくさんの人と出会い色々なことを学び、思った以上の成長が得られたと思います。本当に有意義で楽しい8週間でした。



野々部さん（中央前）

「SIU2学年次カリキュラム受講コース」への派遣者

医学部5学年次生 高橋 寿彰

SIUへの留学は今年で2度目でした。今年は、全ての座学を修了し共用試験も終えた状態でPBLに臨めたことが去年との大きな差でした。PBLで鑑別を考える際にいかに病態を理解し、他領域の疾患を除外できるかが重要だと感じました。SIUの学生主体で行うfree clinicを見学した際には、学年に関係なく全員が一人ひとり丁寧に対応しているのを見てその姿に感銘を受けました。『目の前の患者さんに対して自分ができる最良のことを考え、そしてその経験からいかに多くを学ぶか』がBSL学生のあるべき姿なのだと感じました。去年は全てが新鮮でSIUの学生を尊敬するばかりでした。しかし、今年留学して、敵わないと諦めるのではなく彼らに負けないつもりで挑むのも留学の一つのあり方であると感じました。

医学部5学年次生 藤田 美穂

4学年次生の時に南イリノイ大学医学部のPBLコースに参加してきました。日本でのPBLとは違い、その時その場で持っている意見や理由を、他の学生に納得いくまで伝え切るというスタイルがとても新鮮でした。また、PBLの他にも、フリークリニックや問診身体診察の実習をすることができましたが、全てにおいて現地学生の積極的な姿勢に自分との差を感じてしまいました。

この経験をもとに、医師として必要な上記のようなことを少しでも身に付けていけるよう日本での病院実習に日々励みたいと思います。

医学部5学年次生 間瀬 宏美

私は南イリノイ大学（SIU）医学部への短期留学で、現地の学生に交じってPBL（問題解決型学習）や授業への参加、学生によるフリークリニックの見学など貴重な体験をさせていただきました。中でも驚いたことは、部活動が存在しないために授業が終わったら勉強するという日常です。これが現地の学生の知識が豊富な理由だと思います。今回の留学を通して、医学の知識を身に付けるだけでなく学習への意欲を常に持つことや、失敗を恐れず話すこと、疑問があればすぐ聞くことなど様々なことに気付くことができました。

この素晴らしい留学を支えて頂いた先生方に感謝をし、SIUで得たこの経験を他の学生と共有したいと思います。

医学部5学年次生 森 智世

留学をどういったものにするかは自分次第。私にとっては2回目となるSIUへの留学であり、前回よりも内容の濃い留学にしたいと思っていました。前回の留学は留学自体が目標でしたが、今回は両校の学生にとって学び合える機会を持ちたいという目標がありました。渡米前からSIU教員の方と連絡を取り、先生方のご協力及び派遣者全員の努力により、50人を超える学生と教員に対して日本文化と保険制度についてのプレゼンテーションを行うことができました。何かをやりたいと意思を伝えれば、現地の先生方も快く協力して下さいます。今後留学される方も、留学中にどのようなことをしたいかという目標を持っていくと、より濃い経験ができるのではないかと思います。

医学部4学年次生 久徳 綾香

今回、南イリノイ大学医学部へ3週間の留学をさせていただきました。現地では、週に3回のPBLを中心としたプログラムを経験しました。PBL自体は留学前にも経験がありましたが、SIUでのそれは私が知っているものの何倍も濃密なものでした。一つの症例に対して出てくる疑問（learning issue）の多さや周りの学生の着眼点の多さ、また情報を処理するスピードに圧倒され、PBLを通して自分の勉強不足を痛感するとともに、学習へのモチベーションは間違いなく高まったと感じています。

また、勉強面以外にも、SIUの医学生と交流を持てたことによって、日本の医療システムの利点や欠点、アメリカの学生たちが日本の医療についてどう考えているかなどを知ることができ、自分の医療に対する考え方を再認識する良いきっかけとなりました。

医学部4学年次生 結城 七海

今回、SIUの2学年次カリキュラムコースへの留学に応募したのはPBL（Problem Based Learning）がとても楽しいと思ったからです。PBLの大きな魅力は、先輩や同学年の学生と医学に関して話し合う機会が設けられるという点だと私は思います。話し合うことによって自分の知識を再確認することもできますし、新たな疑問ができたりもします。実際に留学して現地でPBLを数回行いましたが、SIUで行うPBLは非常に臨床に近い内容で魅力的な上、驚くほど質の高い内容で充実した時間を過ごすことができました。

本学でも、このように医学のことを学生同士で話し合う機会が増えれば、学生が主体的に勉強する大きなきっかけに成り得ると感じました。

医学部4学年次生 李 麗佳

SIUでの3週間の留学生活を通して様々な人に出会い多くのことを経験し、とても充実したかけがえのない毎日を過ごすことができました。特にSIUの学生と交流する中で、日本の学生との違いに驚きました。SIUの学生は、勤勉で人に何かを説明することが大変上手で、見習うべき点がたくさんありました。人に分かりやすく伝えるということは、医師になってからも求められる重要な能力だと思います。そのような面からも、PBLをユニットの授業と並行して頻繁に取り入れ、学生同士で教え合いお互いを高め合うというSIUのスタイルに魅力を感じました。これからは、学んだことを人に説明できるようになることを目標に、知的好奇心旺盛に日々勉学に励みたいと思います。



SIU学生との記念写真

医学部早期体験実習体験記

平成27年度医学部新入学生による早期体験実習が、平成27年6月8日（月）から10日（水）の3日間にわたり、本院の各病棟において行われました。体験実習を終えた学生の感想文を紹介します。

医療現場でのコミュニケーションの大切さと看護師さんの偉大さ

実習病棟：7 A病棟（循環器内科，心臓外科）

1 学年次生 古屋 佑夏

実習前のオリエンテーションで、看護部長が「看護師のしていることをよく見てください。全てをやっているのが良い看護ではありません。」とおっしゃっていたのを聞いて私はハッとしました。私は無意識に、看護といえば看護師さんが患者さんに献身的に仕え、身のまわりのことを何でも手伝うというイメージを持っていたからです。なので、看護部長の言葉に驚くとともに、実際に看護師さんがどのように患者さんに接しているのか自分の目で見たくなりました。また、チーム医療を行う上で重要となる医師と看護師、また看護師同士のコミュニケーションがどのようになされているのかにも興味があったので、私は今回の実習における目標を医療現場でのコミュニケーションを学ぶことに置きました。

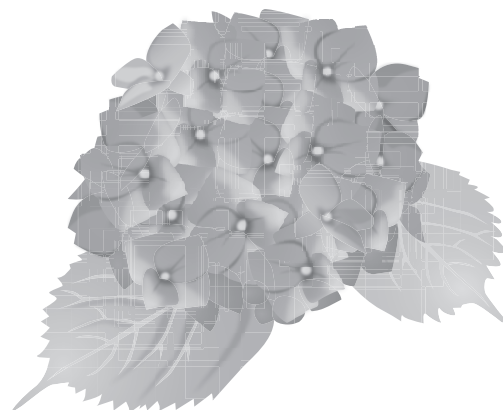
実際に実習に当たって、まず、看護師さん同士のコミュニケーションが多いことに驚きました。例えば患者さんに与える薬に変更があった場合、変更内容が書かれた付箋が処方箋に貼ってあります。それでも、「これはこういうことだね？」と逐一確認されていました。人の命を預かる職業上当たり前のことかもしれませんが、このような慎重さは慣れとともに失われがちです。スタッフステーション内に絶えず緊張感が漂いながらも、それでいて時々笑いが起こり、些細なことでも気兼ねなく話せる和やかさがあるからこそできることだと思います。一人の看護師さんが同じ患者さんをずっと見続けるのではなく、日替わりで担当が変わるために引き継ぎをしつかりしなくてはならないということも、コミュニケーションの機会を増やすのに一役買っているのかもしれない。

また、以前講演で「医師と看護師は分かり合えない。折り合いを付けつつ患者さんにとってベストな妥協点を見付けるしかない。」とお聞きしたので、医師と看護師で意見が食い違ったとき実際はどのように擦り合わせをしているのかを注意して見ていました。その時話し合っていたのが若い看護師さんだったからかもしれませんが、私個人としては看護師さんがあまり自分の意見をおっしゃることができていないような気がしました。私は仕事上、医師が看護師より立場が上とされることがあるのが非常に問題だと感じているので、理想としては、できるだけ患者さんと長い時間接して状況を把握し、それでも見えない部分を見て下さっている看護師さんの考え

を理解し解決策を見出だせる医師になりたいです。

循環器内科と心臓外科の特色として、慢性疾患の方が多きことと、肺や腎機能の障害を伴って重症化することがあるそうです。実際、患者さんの中にはこちらの言ったことに対して反応がなかったり、反応はあっても会話にならなかったり、という方もいらっしゃいました。しかし、看護師さんたちはそんな患者さんの声に真剣に耳を傾け、何をしてあげられるのかをずっと考えていらっしゃいました。「看護師だから」という理由だけでそこまでできるとは私には思えず、何が原動力になっているのか知りたいと思いました。実際看護師さんに聞いたところ、「困っている人が目の前にいたら助けたいし、やはりやりがいがあるから」だそうです。

今回の実習で、看護師さんの偉大さを改めて思い知りました。看護師さんは、患者さんと接する時間が長いからこそ、誰よりも患者さんのことを考えていらっしゃるのだということを身をもって体験しました。医師になってからも、この尊敬の気持ちを忘れずにいたいです。



医学部1学年次生と教員との「ふれあい朝食会」開催

平成27年7月15日（水）午前8時からレストランオレンジにおいて、医学部1学年次生と教員との「ふれあい朝食会」が実施されました。

これは、学生の規則的な生活と朝型のリズム取得による脳の活性化を図るとともに、教員との懇親を図ることを目的として開催されたものです。

当日は88名の1学年次生と、三宅養三理事長、佐藤啓二学長、岡田尚志郎医学部長を始め教員10名が一緒に話をしながら朝食を共にしました。

なお、10月14日（水）に2回目が予定されており、しっかりと朝型リズムを身に付けてもらえることを期待します。



平成27年度第1回看護学部・看護学研究科FDセミナー開催

看護学部における教育研究指導上の問題点を明確にして、その解決法を考察するとともに、看護系教員のレベルアップを図るためのFDセミナーが、平成27年4月10日（金）、20日（月）、5月11日（月）、18日（月）において、四回シリーズで開催されました。

今回のセミナーは「看護学教育の概要について」をメインテーマに、平成27年度本学へ就任した新任教員及び若手教員を対象として行われました。

セミナーでは、四つの研修テーマ「看護学教育課程の構造と特徴」、「授業展開の基礎知識」、「授業展開の方法と特徴」、「教育計画の立案と評価方法」に基づいて開催され、今回のセミナーの講師は、八島妙子教授（老年看護学）及び茅喜田恵子教授（精神看護学）が担当されました。

八島教授は大学における看護学教育の特徴及び教育の理論的枠組み、看護学部の設置の趣旨、教育理念・目標等、基本的な考え方を理解し、謙虚に教育研究に取り組んでもらいたいと話がありました。

茅喜田教授からは、学習者の視点に立った授業設定、授業の組織化、教育評価の四大機能等について講義され、基礎・基本を大切に着実に実行してくださいと話がありました。

それぞれ講師と受講者との活発な意見交換がなされ、とても有意義なセミナーになりました。

看護学部FD委員会では、今後も教育研究の質向上に積極的に取り組んでいきます。



ディスカッションする講師の八島教授と受講者



講演する講師の茅喜田教授

栄養治療支援センター設置

これまで本院においては、栄養スクリーニングを含む栄養状態の評価、栄養管理が必要と医学的に判断される患者さんの栄養管理計画の作成、定期的な評価など、栄養治療の支援を栄養サポートチームが担ってきましたが、活動の中心を担う医師については、学内の兼任医師及び非常勤医師に依存してきた背景があります。しかしながら、これら医師へ依存する体制では機能的な活動もできず、その体制の立て直しが急務と考え、当院の栄養管理体制の中心的な役割を担うため、中央診療部の一つとして平成27年6月1日付けで「栄養治療支援センター」

が設置されました。

入院患者さんの栄養障害は、その病態の回復に悪影響を与え、創傷治癒の遅延、免疫能の低下などにより術後合併症や感染症の発生率が上昇することが分かっており、これらは在院日数の延長、ひいては入院コストの増大といった病院経営上、看過できない問題を生じる要因となっています。

本センターでは、栄養不良状態にある入院患者さんに対して適切な栄養治療を行い、治療成績を高め、在院日数の短縮、医療費の削減に努めて参ります。

看護部川谷陽子主任

ネパール連邦民主共和国地震災害に対する 国際緊急援助隊医療チーム派遣に参加して

平成27年4月25日（土）に発生したネパール地震に対して、本院看護部の川谷陽子主任が国際緊急援助隊医療チームの看護師隊員として派遣されました。現地での活動内容について、ご紹介いたします。

平成27年4月25日（土）15時11分（日本時間）に発生したネパール地震に対して、国際緊急援助隊医療チームの看護師隊員として派遣されました。4月27日（土）の時点で死者3,000人以上、被災者800万人以上と甚大な被害であり、活動範囲も多岐にわたると予測されました。

活動場所はカトマンズから100km（車で約4時間）離れたShindhupalchok郡 Bahrabiseとなりましたが、選定理由として震源地から離れているが、甚大な被害、地域医療機関も被災により診療機能が低下していたためです。

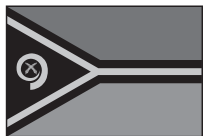
5月1日（金）から2次隊へ引き継ぐ9日（日）までに、手術6件、入院7件を含め645名の診療活動を行いました。今回初めて手術機能を有するチームの一員として現地に入り、8歳男児の左肘脱臼骨折に対し手術を行いました。この男児は受傷後、何も処置されないまま1週間が経過していたため、左手の機能障害を残す恐れがありました。現地ですばやく手術をすることができました。受診する患者さんたちは、テント等の避難生活によって砂埃などによる汚染がひどく、手洗いなどの衛生行動が取れず、下痢などの感染症が増加しつつあったため、ネパール政府が配布している衛生教育用ポスターを



現地のこどもたちと

活用して手洗いやうがいに関する衛生指導を実施しました。

今回の診療活動は、被災したプライベートスクールの校舎を一部間借りして実施しましたが、診療を開始すると学生や子どもたちが自然に集まってきて、受付や診察時にネパール語から英語への通訳を手伝ってくれ、子供たちの笑顔に癒されながらの活動は本当に支えとなり、今回の派遣の中で一番印象的でした。



バヌアツ共和国 サイクロン被害派遣医療チームによる報告会開催

平成27年5月11日（月）午後6時30分から、大学本館301講義室において、災害医療研究センター主催による「バヌアツ共和国サイクロン被害に対する国際緊急救助隊医療チーム活動報告会」が開催され、今回国際協力機構（JICA）より派遣された本院看護部の川谷陽子主任、名古屋市立大学の山岸庸太医師、岐阜薬科大学の林秀樹薬剤師の3名が活動報告を行いました。

川谷主任は、先遣隊としてサイクロン被害の概要、WHOミーティングの中で活動場所選定の難しさ、被災地でのラピットアセスメント活動、離島での看護活動、保健衛生活動、栄養評価、隊員の健康管理について報告がありました。更に山岸医師、林薬剤師のそれぞれの立場や視点からの報告も踏まえ、異なる職種ならではの災害支援の考え方を共有することができ、他職種連携の重要性を認識できる貴重な機会となりました。

最後に参加者との質疑応答では、隊員の健康管理に関



報告する川谷主任

する質問や現地での薬剤の使用方法などについて、有意義なディスカッションが行われました。

あまり馴染みの薄かったバヌアツ共和国ですが、一日も早い復興を願うばかりとの強い思いを共有できる報告会となりました。

＝ 地域連携 ＝

長久手市・株式会社長久手温泉との連携による 「痛みらくらく教室・長久手スタイル」開催

平成27年6月21日（日）長久手市・株式会社長久手温泉との連携事業の第4弾として、「痛みらくらく教室・長久手スタイル」が開催されました。

今回は長久手市福祉の家を会場として「痛みを理解し、痛みを癒して痛みと上手に付き合ひましょう」というテーマで、本センターで毎週月曜日に開催している「痛みらくらく教室」をベースとして呼吸法を中心としたヨーガでリフレッシュして頂く内容で行われました。

少人数で和気あいあいの雰囲気の中で、運動療育センターの池本竜則助教による脳が認識する痛みのメカニズムの講演では、ユーモアに富んだ内容で認知行動療法について詳しく説明頂きました。

その後、会場を移し、講師の若林淑子主任による痛みらくらくヨーガとして、姿勢と呼吸法を体験して頂きました。中でも、「笑いのヨーガ」では、会場全体が笑い声に包まれ、盛会のうちに実技が終了しました。



最後に、長久手温泉ござらっせでゆっくり入浴し、リフレッシュして頂きました。

参加者の皆さんには、イベントを通して痛みとの付き合い方や頑張りが過ぎないペーシングの大切さについて感じて頂くことができました。

本学では、今後も長久手市と連携し、地域住民の方々の健康づくりに役立つイベントを開催していきます。



医学情報センター（図書館）

英語論文執筆 & 投稿支援セミナー開催

医学情報センター（図書館）では、平成27年7月7日（火）国際交流センターとの共催で「英語論文執筆&投稿支援セミナー」を開催し、教職員を中心とした41名が参加しました。

セミナーの第1部では、医学部外国語のKenneth John Slater 講師による「Concordance を用いた正しい英語表現の選び方」の講義、第2部では、愛知淑徳大学の山崎茂明教授をお招きし「Publication Ethics」の講義をして頂きました。

第1部では、英文を書く上でライフサイエンス辞書の共起表現機能等のツールについて紹介があり、それを用いた英文執筆のコツについて話がありました。第2部では、ミスコンダクトの事例が多く紹介され、発表倫理は各研究者が守るだけでなく大学が公正さに強く関心をもつべきだと話がありました。



参加者アンケートでは、非常に良かったと好評でした。

次回は、9月16日（水）に外部のエディターをお招きし英文個別セミナーと講義を行う予定です。

運動療育センターだより

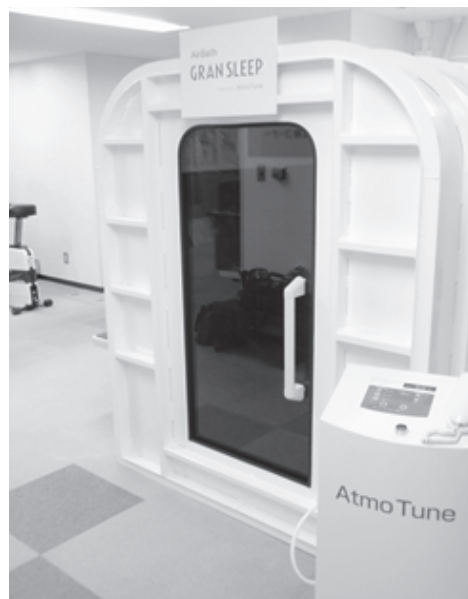
Air Bath GRAN SLEEPを導入しました

運動療育センターでは、平成27年6月から気圧医学研究を応用した優しい高気圧によるインナーバランスソリューション「Air Bath-GRAN SLEEP」を導入し、運用を開始しました。

天気が悪くなると膝や腰が痛む、肩がこる、頭が痛くなるなど感じた人は多いと思います。それは気圧の変化により自律神経が乱れ、体調に異変をきたす気象病と言われるものです。この「GRAN SLEEP」はその気圧を利用して、自律神経のバランス調整をしてくれる健康増進施設には頼もしいマシンです。

今回の導入に当たり、平成27年6月24日（水）203講義室において、開発者である名古屋大学の佐藤純教授に「GRAN SLEEPの科学的効果の仕組み」についてご講演を頂き、たくさんの方々にご参加頂きました。

GRAN SLEEPは、運動療育センターの会員の皆さんはもちろん会員以外の方も利用することが可能ですので、是非ご利用頂きますようお願いしています。



中日スポーツのコラム「心技体健」隔週で連載を担当

平成26年4月から、運動療育センターが中日スポーツのコラム「心技体健」を隔週で担当しています。

医師を始め、理学療法士やトレーナー、管理栄養士などが執筆しており、適切な運動方法や故障時のケア、健康体を維持するためのポイントなどを様々な角度から解

説しています。

詳しくは、本センターホームページをご参照ください。
コラム：

<http://www.aichi-med-u.ac.jp/su22/su2204/index.html>

自己と相手を大切にする職場コミュニケーション向上研修

組織の成果を上げるには、まず職場内のコミュニケーションを良好にすることが大切であることに着目し、「自己と相手を大切にする職場コミュニケーション向上」をテーマとした職員研修を、昨年度に引き続き実施しました。

6月に1回目を実施し、講義とグループワークを通してコミュニケーションの知識を学び、職場で中間課題に取り組んだ後、7月に2回目の講義を行い、取り組んだ課題の内容を振り返りながら学びを深めました。

研修には、事務職員、医療職員、看護職員を始め、ニチイ学館、ソラストの職員も参加し、合計347名が受講しました。

職員のコミュニケーション能力は、患者さんへのサー



ビス・接遇にもつながる大切な能力であることから、学園全体で能力向上に努めていく予定です。

日程 第1回 平成27年6月16日（火）、23日（火）、25日（木）

第2回 平成27年7月14日（火）、21日（火）、22日（水）

※各日90分の講義を3回行い、計9セッションを実施

○受講者の感想

- ・「患者さんのクレームについて、相手の話を聴くことを重視した結果、スムーズに解決できるようになった。」
- ・「あいさつをすることで、話しかけやすくなったり、話しかけられやすくなったり、職員同士で声を掛けあう大切さを感じました。」
- ・「非言語コミュニケーションが上手な人は、患者さんと良い関係が築けていることに気がきました。」
- ・「コミュニケーション向上のポイントを少し意識するだけでも、患者さんとの会話がはずむ気がした。」

チーム力を高める職場づくり研修を実施

法人本部では、組織力向上を目指した人材育成を重要課題とし、職員研修を実施しています。

今回、平成27年6月18日（木）、7月23日（木）の2日間の日程で、職場のリーダーを担う、管理者・監督者を対象とした研修では、昨年に引き続き「チーム力を高める職場づくり」をテーマに実施し、事務職員・医療職員・看護職員42名の方が受講しました。

講義とグループワークを通して、職場をマネジメントする基礎知識を学ぶとともに、メンバーの想いや感情、真意を受けあい、「知恵とチカラがあう場の風土を促進する」ファシリテーション型リーダーシップを学びました。

本学の永続的な発展につなげていくためにも、チーム



力を高め、多職種が協力し合う風土を作り出すリーダーシップの育成に、今後も継続して取り組んでいく予定です。

○受講者の感想

- ・「スタッフとの想いの共有をどうすればできるか日々考えていたが、今回の研修でその方法を学ぶことができた。」
- ・「カンファレンス参加への態度を見直す機会となった。特に『発散』の技法を取り入れ、多くのスタッフの意見が反映される、より良い部署へ変わっていければと思えた。」
- ・「スタッフの感情を見ないふりをしてはダメということに気がきました。」
- ・「リーダーの思いを相手に伝えることが一番大切で、想いをチームスタッフに納得してもらえるように動かなければいけないと思えた。」

木全弘治名誉教授 国際ヒアルロン酸学会賞を受賞

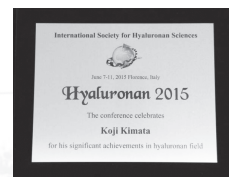
平成27年6月7日（日）から11日（木）にわたり、イタリアのフィレンツェで開催された国際ヒアルロン酸科学学会（ISHAS：International Society for Hyaluronan Sciences）の第10回国際会議において、木全弘治名誉教授が学会賞を受賞されました。

2年に一度開催される同学会の国際会議では、ヒアルロン酸に関連する科学に貢献した研究者を1名選出の上、学会賞を授与しており、この度の受賞は木全名誉教授の長年にわたるヒアルロン酸科学への貢献が高く評価されたものです。

木全名誉教授から「学会冒頭での受賞式では、受賞理由の紹介に続く学会長による賞授与に感激しました。今回の受賞は、加藤延夫前理事長、三宅養三理事長、学際的痛みセンターの牛田享宏教授を始めとする本学の皆さま



授与式で握手を交わす
Paul Weigel会長（左）と木全名誉教授（右）



記念盾

まのご支援、更に共同研究者による協力の賜物と深謝します。また私事で恐縮ですが、亡妻の支えに感謝します。」と感想がありました。

看護学部 佐々木裕子准教授 平成27年度愛知県看護協会長表彰受賞 医療安全管理室 高木三保子副室長 平成27年度愛知県看護協会長表彰受賞 平成27年度愛知県看護功労者表彰受賞

看護学部の佐々木裕子准教授及び医療安全管理室の高木三保子副室長が、平成27年6月18日（木）名古屋市公会堂で開催された愛知県看護協会総会において、愛知県看護協会長表彰を受賞されました。

これは、愛知県看護協会会員として多年にわたり看護業務に精励されとともに、協会活動に大きく貢献された功績が評価されたものです。

また、高木副室長が愛知県看護功労者表彰を受賞しました。これは、看護職員として長年業務に従事し、顕著な功績のあった者に授与される賞で、表彰式は、平成27年5月12日（火）ウインクあいちにおいて開催された愛知県看護大会の席上で行われました。

佐々木准教授から「在宅看護分野で、訪問看護推進委員会、訪問看護プロジェクト・委託研修委員会に携わり、在宅ターミナルケア研修・訪問看護師と病院勤務看護師の相互交流研修の企画・運営などを通して、在宅看護の発展に貢献したいと願い活動して参りました。看護協会の一員として活動できますことは、領域の先生方を始め教職員の皆さまのご支援ご協力があることです。職場の皆さまに心から感謝いたします。」、高木副室長から「このような賞を頂きましたのも、看護師になって長きにわたりご指導頂いた先輩の方々、同僚、ともに看護に携わってくださった後輩の皆さまのおかげと心より感謝しております。医療安全に関わって11年、あと少しですが、与えられた役割を全うして、少しでも本院のお役に立てればと思っております。ご推挙頂きました方々に御礼申し上げます。」と感想がありました。



佐々木准教授



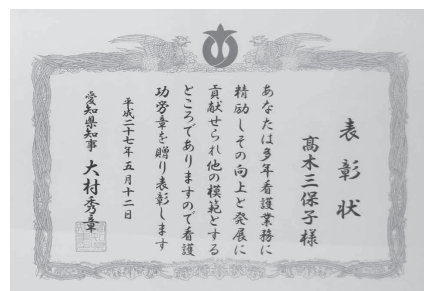
記念盾



高木副室長



記念メダル





優良自動車運転表彰



毎年春に、模範的な運転を行い、交通安全の確保に貢献している優良自動車運転者に対して、愛知警察署長、交通安全協会及び愛知安全運転管理協議会から表彰が行われています。

今年は、看護学部の八島妙子教授（看護学部教務学生部長）が平成27年5月20日（水）に表彰を受けました。この表彰は、学生の安全運転指導に尽力し、自らも安全運転を心がけ、長年無事故・無違反が続いている事が評価されたものです。

八島教授からは「今回の受賞で、改めて自分の運転を見直すことができました。学生指導に責任のある立場に



ありますので、これからも交通ルールを守り安全運転を続けたいと思います。」と感想を頂きました。

内科学講座（循環器内科）鈴木智香さん ミスセともの2015に選出

内科学講座（循環器内科）の講座技術員の鈴木智香さんが2015年度の「ミスセともの」に選出されました。

ミスセとものは、「セともの祭」などのイベントを通して、瀬戸のまちを広くPRすることを目的に毎年選出されています。

鈴木さんから「私の生まれ育った街であります瀬戸市に貢献できることを大変光栄に思っております。歴史が深く、陶磁器や豊かな観光資源など、魅力ある瀬戸市をより多くの方にお伝えしていけるよう精一杯努めてさせていただきます。」と感想がありました。



一般財団法人愛知医科大学愛恵会 教育研究奨励金研究成果報告会開催

一般財団法人愛知医科大学愛恵会においては、顕著な業績を挙げつつある若手研究者又は萌芽を生み出しつつある若手研究者に対して、その研究を発展させるために助成することを目的とした教育研究奨励金（研究助成）制度を毎年実施しており、平成26年度についても医学部及び看護学部の多くの希望者の中から、各学部において候補者が選考され、応募頂きました。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、年々希望者が増加していることを踏まえて、平成26年度募集から助成金を増額することとし、審査委員会の審査を経て、医学部6名、看護学部2名に対し総額700万円を助成しました。

その助成を受けた研究者による「教育研究奨励金研究成果報告会」が、平成27年5月18日（月）大学本館202講義室において行われました。

発表者からは、助成金により研究が計画的に推進でき、



成果も得られたという点で大変助けられ、また今回得た研究結果を更に発展させていきたいというご意見を頂きました。

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、今後とも若手研究者が本来の力を発揮できるように、事業の継続に努めて参ります。

主催公演事業

一般財団法人愛知医科大学愛恵会では、入院・通院患者さんを始め、地域の方々へのサービス事業の一環として、定期的に主催公演事業を開催しています。

第1回主催公演事業

～中央棟オープン1周年記念事業～

中央棟オープン1周年記念事業として、平成27年5月9日（土）に第1回主催公演事業を開催しました。

「トーク＆ライブ」では、夫婦で全国を回り活動を続けているESPERANZA（エスペランザ）によるコンサート、そして自らの闘病生活の体験を交えたトークに、皆さん真剣に聞き入っていました。演奏終了後も拍手が鳴りやまず、アンコールの要望にも快く応えて下さるなど、たくさんの感動に満ちた充実した時間となりました。

「体験教室」では、絵手紙教室、プリザーブドフラワー教室、介助犬コーナーが開催され、どの教室も子供からお年寄りまで多くの参加者で賑わい、いずれも定員を上回る好評ぶりでした。特に、初の試みとなった介助犬コーナーでは、デモンストレーションに加え、PR犬と実際に触れ合うこともできるなど、とても貴重な体験をすることができました。

第2回主催公演事業

～サマーコンサート・体験教室～

平成27年7月25日（土）に第2回主催公演事業を開催しました。

「サマーコンサート」では、地元を中心に活躍中のコンサートグループ「花の詩」会員のNWSサクスカルテットによるコンサートが開かれ、きれいな歌声、迫力ある演奏で観客を魅了しました。

コンサートの後は、春日井市出身で今もっとも注目されている若手マジシャンの一人、田中大貴さんによる「マジックオブイリュージョンDAIKI」が開催され、観客を交えたユーモラスなマジックから、トランプを使った誰もが想像つかないマジック、そして最後のクライマックスでは、大掛かりな装置を使った人体交換・瞬間移動と、最初から最後まで観客を喜ばせ、感動させるとともに、魅せるショーを繰り広げました。

「体験教室」では、初の試みとなる心書体験教室に加え、アロマハンド“マッサージ”、おいしいお茶のいれ方教室が開催され、いずれも好評でした。

また、JAあいち尾東の全面的な協力を得て「産直（野菜）販売」を初めて実施したところ、販売開始直後に完売するものがでるなど、大変好評でした。



プリザーブドフラワー教室



心書体験教室



介助犬コーナー



産直（野菜）販売



献血ご協力ありがとうございました

夏の団体献血

平成27年6月16日（火）医心館1階ロビーにおいて、愛知県赤十字血液センター主催の本学職員等による団体献血が実施され、職員を始め多くの方々にご協力頂きました。

せっかく献血をお申し出頂いたのに体調によりご協力頂けなかった方々は、ご自愛頂き、次回の献血の際には是非ご協力くださるようお願いいたします。

今回は、平成28年2月頃に予定していますので、ご協力よろしくお願いします。

・献血受付数	・51名
・献血できた方	・37名 (400ml・33名)
・献血できなかった方	・14名

著書等ご寄贈のお願い

医学情報センター（図書館）では、本学教職員及び卒業生の方々が執筆された図書、AV資料等を積極的に収集し、広く利用者の皆さまに提供しております。

著書等を発行された場合には、是非図書館にご寄贈くださるようお願いいたします。

※ご寄贈頂ける場合には、貸出用・保存用として2冊頂けると幸いです。

【お問い合わせ先】

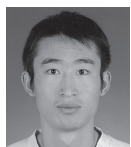
医学情報センター（図書館） 図書担当

電話：(0561) 61-1836 [ダイヤルイン]

E-mail：library@aichi-med-u.ac.jp

学位授与

◆大学院医学研究科

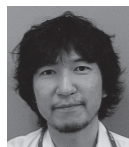


李 玉強

学位授与番号 甲第452号

学位授与年月日 平成27年7月9日

論文題目：「マウス術後痛モデル動物が示す痛覚過敏と術後瘢痕部およびDRGの遺伝子発現変化」



大野 隆之

学位授与番号 乙第375号

学位授与年月日 平成27年6月11日

論文題目：「Plumbagin suppresses tumor cell growth in oral squamous cell carcinoma cell lines (プランバギンは口腔扁平上皮癌細胞株種の増殖を抑制する)」



増井 竜太

学位授与番号 乙第374号

学位授与年月日 平成27年5月14日

論文題目：「G Protein-Coupled Receptor 43 Moderates Gut Inflammation Through Cytokine Regulation from Mononuclear Cells (短鎖脂肪酸レセプターであるGPR43は単核球からのサイトカインを介して腸炎を制御する)」

研究助成等採択者

○公益財団法人三菱財団

第46回（平成27年度）自然科学研究助成

●氏 名 武内恒成（生物学・教授）

研究題目 糖鎖発現制御による神経回路制御機構の解析と神経再生への試み

助成金額 4,000,000円

○公益信託第24回日本医学会総会記念医学振興基金

平成27年度研究助成

●氏 名 一文字功（感染・免疫学講座・助教）

研究題目 TLR群結合蛋白MD-1、MD-2とY δ T細胞の関係

助成金額 1,000,000円

本学講座等の主催による学会等

【学会名】	【開催日】	【会長等】
・ 東海・北陸ペインクリニック学会第26回東海地方会	平成27年 5 月 9 日(土)	畠山 登
・ 第33回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会	平成27年 5 月15日(金)・16日(土)	天野 哲也
・ 第36回日本循環制御医学会総会	平成27年 6 月 5 日(金)・ 6 日(土)	木下 浩之
・ 日本耳鼻咽喉科学会第161回東海地方部会連合講演会	平成27年 6 月 7 日(日)	植田 広海
・ 第41回日本熱傷学会総会・学術集会	平成27年 6 月18日(木)・19日(金)	横尾 和久
・ 第44回愛知臨床外科学会	平成27年 7 月20日(月・祝)	今井 常夫

東海・北陸ペインクリニック学会第26回東海地方会

平成27年 5 月 9 日(土) ウィンクあいちにおいて、東海・北陸ペインクリニック学会第26回東海地方会が本院周術期集中治療部の畠山登教授(特任)を会長として開催されました。

昨今、社会における「痛み」、またその治療手段としての「ペインクリニック」に対する認知が進み重要性が増す中で、様々な話題について100名を超える参加者により討論が行われました。

今回は一般演題に加え、ランチョンセミナーとして、名古屋市立大学麻酔・機器管理医学分野の杉浦健之准教授に「痛みの神経科学が進むべき新方向について～慢性痛治療へのヒントとなるか」、また特別講演として富山

大学大学院医学薬学研究部麻酔科学講座の山崎光章教授に「慢性痛と不安・不眠、そして運動療法」というタイトルでご講演を頂きました。

社会的にも大きな問題となっている慢性痛に対して、基礎医学、臨床医学の両面からアプローチができたことで、活発な討論が行われました。また、超音波ガイド下神経ブロックハンズオンセミナーも同日開催され、遠くは九州より参加頂いた先生もおられ、大変盛況なセミナーとなりました。

末筆となりましたが、本学会の開催に当たり関係の皆さまより多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

第33回日本心血管インターベンション治療学会 東海北陸地方会

平成27年 5 月15日(金)、16日(土) ウィンクあいちにおいて、第33回日本心血管インターベンション治療学会東海北陸地方会が、医学部内科学講座(循環器内科)の天野哲也教授を会長として開催されました。

本学会は、虚血性心疾患を中心とする心血管疾患に対する有効かつ安全なカテーテル治療の開発と発展及び臨床研究の推進とその成果の普及をもって、診断治療技術の向上と学術文化の発展に資することを目的としています。

今回のテーマに「予後改善するカテーテル治療を目指して」を掲げ、医師を中心に、看護師、臨床工学技士、放射線技師、理学療法士など総勢700名を超える参加者

にて活発な討論が展開されました。

2日間を通してシンポジウムやパネルディスカッションを行い、全国の著名な先生方に加え、東海北陸地区の新進気鋭の学会員も登壇し各種テーマについて議論して頂きました。また、一般演題もメディカル・コメディカル合わせて100演題に迫る数にて、盛会裏に学会を終えることができました。

末筆とはなりましたが、本学会の開催に当たり、本学及び学会関係者の皆さまに多大なるご支援とご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第36回日本循環制御医学会総会

平成27年6月5日（金）、6日（土）ウイנקあいちにおいて、第36回日本循環制御医学会総会が医学部麻酔科学講座の木下浩之教授（特任）を会長として開催されました。

本学会は、循環器内科医、心臓血管外科医、生理学者、薬理学者、麻酔科医らが参集し、専門分野にとらわれず基礎及び臨床両面での循環器制御に関する学術研究を発表・討論しあう場として特徴があります。そのような特徴をますます生かすことを今後の本学会の重要なタスクと位置づけて、今総会テーマを「循環制御の新たな潮流

を模索する」とし、活発な発表及び議論が行われました。招請講演では、本学看護学部クリティカル看護学の小松徹教授に「心拍変動と循環制御」と題してご講演頂きました。更に、「心臓デバイスと周術期管理」、「炎症と周術期循環管理」、「酸化ストレスと循環制御」の3テーマのシンポジウムが開催され、盛会裏に会を終了することができました。

末筆となりましたが、本学会開催に当たり多大なるご協力、ご支援を賜りました本学関係者の皆さまに深く御礼申し上げます。

日本耳鼻咽喉科学会 第161回東海地方部会連合講演会

平成27年6月7日（日）大学本館たちばなホールにおいて、第161回東海地方部会連合講演会が医学部耳鼻咽喉科学講座の主催で開催されました。

この会は、愛知県・岐阜県・三重県内の6大学及び愛知県の四つの主要な病院の持ち回りで年4回開催されています。通常ですと午前・午後の1日での開催ですが、本年6月は例年午後に補聴器相談医のための講習会があり午前のみの開催でした。

一般講演のみの学会であり、今回は本学の耳鼻咽喉科学講座を含めて15題の一般演題の発表がありました。参加者は、東海3県の大学・病院の耳鼻咽喉科勤務医及び開業医197名で活発な討論がなされ、大変有意義な学会となり成功裏に終えることができました。

末筆になりましたが、本会の開催に当たり皆さま方の多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

第41回日本熱傷学会総会・学術集会

平成27年6月18日（木）・19日（金）名古屋観光ホテルにおいて、第41回日本熱傷学会総会・学術集会が本院形成外科の横尾和久教授を会長として開催されました。

本学会は、熱傷医療に携わる救命救急科、形成外科の医師に加えて、救急救命士も多数参加する学際的な学会です。重症熱傷集団発生時の対策、我が国で初めて臨床応用された再生医療として位置づけられる培養表皮移植などにつき活発な討論が行われました。

特別講演には、米国随一の培養表皮移植の実績を有す

るインディアナ大学のRajiv Sood教授、中国最大規模の熱傷ユニットを有する上海交通大学瑞金医院のHuan Jingning教授をお招きしました。更に四つのシンポジウム、救急救命士を対象とした病院前救護処置の講習会など多彩なプログラム構成により、盛会裡に終了することができました。また、600名を超える方々にご参加頂きました。

本学会の開催に当たり、多大なるご支援を賜りました本学関係各位に深謝いたします。

第44回愛知臨床外科学会

平成27年7月20日（月・祝）名古屋市医師会館において、第44回愛知臨床外科学会が病院医療安全管理室の今井常夫教授（乳腺・内分泌外科兼務）を会長として開催されました。

本学会は、日本臨床外科学会の愛知県支部が開催する学会で、毎年7月の海の日と2月の建国記念日に愛知県医師会館で開催され、特に若手外科医や研修医の発表の場としても活用されています。

今回は、ランチョンセミナーで愛知県がんセンター中央病院消化器外科部医長の安倍哲也先生に「両側肺換気・

気胸を用いた腹臥位胸腔鏡下食道切除術－拡大視による縦隔微細解剖を意識した手術－」というタイトルでご講演頂きました。愛知臨床外科学会という名前ですが、岐阜県、三重県からの発表・参加も多く、一般演題は50題の応募を頂き、146名の方々にご参加頂き盛会裏に会を終了することができました。

末筆となりましたが、本学会の開催に当たり、本学及び学会関係者の皆さまに多大なるご支援とご協力を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

平成27年度科学研究費助成事業 (科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金) 交付決定

平成27年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金・学術研究助成基金助成金）が採択され、次のとおり交付決定がありました。

（金額単位：千円）

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
新学術領域研究 (研究領域提案型) (補助金)	武 内 恒 成 医 学 部 生 物 学, 教 授	3,600 (継続)	1,080	コンドロイチン・ヘパラン硫酸合成酵素発現ネットワーク－ 神経再生・発生・機能相関－
〃	松 永 昌 宏 医 学 部 衛 生 学, 講 師	4,300 (継続)	1,290	幸福感に関連する共感性の分子・神経基盤の解明
〃	武 内 恒 成 医 学 部 生 物 学, 教 授	2,600	780	脳脊髄損傷後再生における神経回路再編の動態解析－細胞外 環境制御とウイルス導入系－
〃	岡 田 洋 平 医 学 部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	1,800	540	患者iPS細胞由来ニューロンにおける異常タンパク凝集を促 すストレスシグナルの解析
基盤研究(B) 一 般 (補助金)	大 石 ふ み 子 看 護 学 部 在宅看護学, 教授	1,500 (継続)	450	頭頸部がんへの放射線治療による晩期開口障害を改善する看 護介入プログラムの開発
基盤研究(B) 一 般 (補助金・基金)	渡 辺 秀 人 分子医科学研究所 教 授	3,200 (継続)	960	病態における細胞外プロテオグリカンの役割：細胞挙動制御 と組織構築機構
〃	小 林 孝 彰 医 学 部 外科学講座(腎移植外科), 教授	3,300 (継続)	990	腎移植における慢性抗体関連型拒絶反応制御のための総合的 戦略
〃	菊 地 正 悟 医 学 部 公衆衛生学, 教授	3,500 (継続)	1,050	ヘリコバクター属感染と膵がん・胆道がんのリスク
基盤研究(B) 一 般 (補助金)	岡 田 洋 平 医 学 部 内科学(神経内科), 准教授(特任)	5,200	1,560	不完全なリプログラミングとゲノム不安定性を指標としたヒ トiPS細胞の品質評価
〃	山 田 陽 一 医 学 部 歯科口腔外科, 准教授	5,900	1,770	歯髄幹細胞特性を応用した効率的組織再生療法の臨床応用ロ ジスティクス
〃	中 野 隆 医 学 部 解剖学, 教授	3,200	960	フィジカルアセスメントに繋がる総合的解剖学実習モデルの 構築を目指して
基盤研究(B) 海外学術調査 (補助金)	伊 藤 誠 医 学 部 感染・免疫学, 教授(特任)	4,100	1,230	省力的空間分布把握システムによる糸状虫症根絶の確認と再 燃の早期発見
基盤研究(C) 一 般 (基金)	佐 藤 ゆ か 看 護 学 部 感染看護学, 教授	(延長)	0	医療機関における感染管理教育プログラムの構築
〃	塚 原 玲 子 客 員 研 究 員	(延長)	0	交感神経反応スイッチの基礎となる中枢過程
〃	鬼 頭 敏 幸 医 学 部 小児科学, 准教授	(延長)	0	モノクローナル抗体をもちいたアスパラギナーゼ感受性腫瘍 の検索
〃	吉 川 和 宏 医 学 部 高度研究機器部門, 教授(特任)	(延長)	0	腎細胞がんに対するがんワクチン・抗原特異的CTL・抗がん 剤を用いた併用療法の検討
〃	谷 川 徹 医 学 部 耳鼻咽喉科学, 准教授	(延長)	0	耳石における放射性物質の動態変化と濃縮予防への挑戦
〃	岩 瀬 敏 医 学 部 生理学, 教授(特任)	(延長)	0	宇宙デコンディショニングの対抗措置の戦略的開発と応用

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究 (C) 一 般 (基 金)	坂 本 真 理 子 看護学 部 地域看護学, 教授	1,600 (継続)	480	在日外国人母子への情報提供を促進するコミュニティ・ブリッジ・ワーカーの試み
〃	宮 本 淳 医学 部 心理学, 准教授	300 (継続)	90	大学生のレポート作成における情報リテラシー：剽窃行為の把握と対策
〃	増 渕 悟 医学 部 生理学, 教授	800 (継続)	240	時間治療を目指した腫瘍細胞概日時計の多様性の解明
〃	シバスダランカルナン 医学 部 生 化 学, 講 師	1,200 (継続)	360	ゲノム編集を施したヒト気道上皮細胞株を基盤とする K R A S シグナル経路の解析
〃	村 上 秀 樹 医学 部 病理学, 准教授	1,300 (継続)	390	癌遺伝子 Y A P / T A Z のタンパク質相互作用ネットワーク解析と腫瘍形成における役割
〃	小 出 直 樹 医学 部 感染・免疫学, 准教授	900 (継続)	270	敗血症及び腸炎モデルにおける C R E B 制御分子の関与
〃	横 地 高 志 名 誉 教 授	1,000 (継続)	300	細胞内 D N A センサー蛋白とエンドトキシン応答クロストーク
〃	小 林 章 雄 医学 部 衛生学, 教授	900 (継続)	270	減量後の体重のリバウンドに関与する生物学的小および心理社会的要因とその機序
〃	柴 田 英 治 医学 部 衛生学, 教授 (特任)	900 (継続)	270	石綿曝露指標としての肺内石綿小体及び肺内無機繊維の関連に関する検討
〃	山 口 奈 緒 子 医学 部 薬 理 学, 講 師	1,200 (継続)	360	ストレス脆弱性の発生機構の解明－思春期のストレス経験が及ぼす影響－
〃	中 出 幸 臣 医学 部 肝胆膵内科, 講師	800 (継続)	240	非アルコール性脂肪性肝炎進展におけるストレスおよび交感神経系の関与
〃	津 田 雅 庸 医学 部 救命救急科, 准教授	700 (継続)	210	原発性胆汁性肝硬変 (PBC) における肝繊維化の機序とサイトカインの検討
〃	林 寿 来 医学 部 生理学, 講 師	1,000 (継続)	300	血管内皮細胞における細胞間シグナル伝達因子の発現制御機構
〃	西 原 真 理 医学 部 学際的痛みセンター, 教授 (特任)	800 (継続)	240	疼痛性障害における神経生理学的評価法の開発
〃	安 藤 孝 人 医学 部 乳腺・内分泌外科, 医員助教	100 (継続)	30	磁気ナビゲーションを用いた分子イメージング標的病変検出支援型超音波診断装置の開発
〃	中 野 正 吾 医学 部 外科学 (乳腺・内分泌外科), 教授 (特任)	100 (継続)	30	磁気ナビゲーションを用いた診断支援型乳腺超音波イメージングシステムの開発
〃	手 塚 理 恵 医学 部 乳腺・内分泌外科, 医員助教	500 (継続)	150	細胞外マトリックス成分の生合成からみた乳癌・甲状腺癌転移浸潤機構の解明
〃	高 阪 絢 子 医学 部 外科学 (乳腺・内分泌外科), 助教	500 (継続)	150	甲状腺癌における細胞外マトリックス成分の発現動態を介した癌転移浸潤機構の解明
〃	新 井 健 一 医学 部 運動療育センター, 准教授	700 (継続)	210	パルス高周波神経ブロックのメカニズムと感覚と痛覚への影響解析
〃	田 辺 圭 子 看護学 部 母性看護学, 教授	500 (継続)	150	妊娠期の自律神経活動にみる胎内環境の継世代的関連
〃	大 道 美 香 医学 部 解剖学, 助教	800 (継続)	240	運動器慢性痛の発症予防プログラム開発のための基盤構築

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究（C） 一 般（基金）	梅 澤 一 夫 医 学 部 分子標的医薬探索寄附講座，教授	1,200 (継続)	360	新規骨格を有するNF-kappa B阻害剤の探索と難治性がん治療への応用
〃	鈴 木 進 部 医 学 部 腫瘍免疫寄附講座，准教授	1,600 (継続)	480	エフェクター制御性T細胞の統合的制御に基づく新たながん免疫治療法の確立
〃	稲 熊 真 悟 医 学 部 病 理 学，講師	1,100 (継続)	330	新規シグナル経路GLI1-CXCR4による肉腫悪性形質制御メカニズムの解析
〃	小 笠 原 尚 高 医 学 部 内科学（消化管内科），准教授	1,000 (継続)	300	大腸癌における上皮細胞増殖因子および腫瘍壊死因子関連新規分子標的遺伝子の機能解析
〃	天 野 哲 也 医 学 部 内科学（循環器内科），教授	1,600 (継続)	480	生活習慣（病）の改善が冠動脈プラーク性状に与える影響
〃	山 口 悦 郎 医 学 部 内科学（呼吸器・アレルギー内科），教授	1,100 (継続)	330	自己免疫性肺胞蛋白症の自己抗体エピトープ解析
〃	中 山 享 之 医 学 部 輸 血 部，准教授	1,400 (継続)	420	リンパ腫微小環境に存在する多能性幹細胞MUSEの機能解析
〃	奥 村 彰 久 医 学 部 小児科学，教授	1,200 (継続)	360	次世代拡散MRI解析を用いた小児神経疾患の脳微細構造解析
〃	大 須 賀 浩 二 医 学 部 脳神経外科学，教授（特任）	1,300 (継続)	390	慢性硬膜下血腫被膜の自然退縮におけるapoptosisの役割
〃	武 内 恒 成 医 学 部 生 物 学，教授	1,500 (継続)	450	脊髄損傷修復に向けた再生阻害機構制御－コンドロイチン硫酸を制御する新素材開発－
〃	住 友 誠 部 医 学 部 泌尿器科学，教授	1,300 (継続)	390	去勢抵抗性前立腺癌のcholesterol代謝経路解明による個別化医療の確立
〃	岩 崎 研 太 医 学 部 腎疾患・移植免疫学寄附講座，准教授	1,200 (継続)	360	移植腎グラフトにおける抗体抵抗性生存シグナル誘導による慢性拒絶反応の予防
〃	三 鴨 廣 繁 医 学 部 感染症科，教授	1,500 (継続)	450	ミクロビオータ解析に基づいた感染症新規治療法開発の試み
〃	小 川 徹 也 医 学 部 耳鼻咽喉科学，教授（特任）	1,100 (継続)	330	頭頸部がん治療における正確かつ迅速な抗がん薬感受性診断法の確立
〃	白 鳥 さ つ き 看 護 学 部 基礎看護学Ⅰ，教授	800 (継続)	240	看護職者の職業被ばくに関する知識および防護行動実態調査と安全教育プログラムの開発
〃	下 村 明 子 看 護 学 部 小児看護学，教授	1,100 (継続)	330	発達障がいの子どもの睡眠改善プログラムを基盤とした生活臨床に関する研究
〃	佐 々 木 裕 子 看 護 学 部 在宅看護学，准教授	900 (継続)	270	地域で活動する訪問看護ステーションが協働で取り組む災害対策の看護ケアモデルの開発
〃	内 田 育 恵 医 学 部 耳鼻咽喉科学，准教授（特任）	700 (継続)	210	聴覚コミュニケーション障害からみた高齢者・障害者・認知症ケアの在り方に関する検討
〃	久 留 友 紀 子 医 学 部 外国語，准教授	800	240	社会的コンテキストの中にあるEFLライティング・タスクの開発
〃	西 山 毅 部 医 学 部 公衆衛生学，准教授（特任）	2,300	690	全ゲノム関連解析およびそのメタアナリシスによる量的自閉症形質座の確証
〃	神 奈 木 玲 児 客 員 教 授	1,200	360	低酸素誘導因子HIFによる糖鎖関連遺伝子の転写誘導とその病態的意義の総合的解明

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
基盤研究 (C) 一般 (基金)	笠井 謙次 医学部 病理学, 准教授	1,900	570	新規転写抑制因子標的遺伝子群から見た非浸潤性乳癌進行の分子病理学的機構
〃	岩崎 靖部 医学部 加齢医学研究所, 准教授	1,400	420	クロイツフェルト・ヤコブ病の嗅球および嗅粘膜におけるプリオン蛋白沈着の検討
〃	梅村 朋弘 医学部 衛生学, 講師	1,600	480	バングラデシュ南部デルタ地帯における塩害に関する調査
〃	小川 匡之 医学部 法医学, 講師	1,800	540	自然毒投与ラット体内の代謝プロファイリング解析
〃	近藤 文雄 医学部 薬理学, 教授 (特任)	1,600	480	中枢性副腎髄質系賦活に関与する視床下部室傍核の灌流液中生理活性物質の網羅的解析
〃	高村 祥子 医学部 感染・免疫学, 教授	1,800	540	B細胞性リンパ腫の新規制御機構
〃	高見 昭良 医学部 内科学講座 (血液内科), 教授	1,500	450	造血幹細胞移植関連遺伝子多型の機能解析とゲノム標的治療の探索
〃	武藤 潤部 医学部 皮膚科, 講師	1,400	420	ヒアルロン酸による皮膚バリア調節機構の解明とアトピー性皮膚炎の新規治療法の開発
〃	若尾 典充 医学部 脊椎脊髄センター, 講師	1,400	420	骨強度評価を用いた癌骨関連有害事象発生リスク予測法の確立ー有限要素解析の応用ー
〃	藤田 義人 医学部 麻酔科学, 教授 (特任)	1,500	450	脳水チャネルアクアポリンのRNA i 機能調節による脳浮腫抑制の臨床応用
〃	橋本 篤部 医学部 麻酔科学, 助教	1,000	300	消化管運動障害でのアストロサイトを介する腸管神経系制御機構の役割と麻酔薬作用
〃	谷川 徹部 医学部 耳鼻咽喉科学, 准教授	1,300	390	新規アディポサイトカイン「オメンチン」の加齢性難聴における役割
〃	柿崎 裕彦 医学部 眼科学, 教授 (特任)	500	150	甲状腺眼症における筋線維芽細胞の起源の研究
〃	馮 国剛 医学部 薬理学, 講師	1,800	540	酸化ストレス誘導蛋白質であるWDR35/nafin 遺伝子の転写制御因子の同定
〃	白井 裕子 看護学部 在宅看護学, 講師	1,400	420	野宿生活者が「野宿」から「社会」に戻ることを目指した看護支援
挑戦的萌芽研究 (基金)	小西 裕之 医学部 生化学, 教授 (特任)	(延長)	0	アデノ随伴ウイルスを利用した特異性の高いヒト細胞ゲノム編集技術の開発
〃	岡田 洋平 医学部 内科学 (神経内科), 准教授 (特任)	600 (継続)	180	ノンコーディングRNAによるヒトES細胞の神経分化制御機構の解析
〃	小林 孝彰 医学部 外科学講座 (腎移植外科), 教授	1,600	180	抗体機能の多様性解析から戦略へ: ABO不適合・HLA抗体陽性移植モデルブタの作成
〃	牛田 享宏 医学部 学際的痛みセンター, 教授	1,900	570	集束超音波技術を応用した変形性関節症の低侵襲治療法の開発
〃	木下 浩之 医学部 麻酔科学, 教授 (特任)	800	240	恐怖記憶形成における麻酔薬作用の分子科学的機序の解明
〃	山田 陽一 医学部 歯科口腔外科, 准教授	1,200	360	幹細胞のオートファジーメカニズム解明による組織再生プロローグ

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
若手研究 (B) (基 金)	大 道 裕 介 医 学 部 解 剖 学, 講 師	800 (継続)	240	運動器不活動後の広範囲慢性痛に対する新たな理学療法戦略構築のための基礎研究
〃	松 永 昌 宏 医 学 部 衛 生 学, 講 師	600 (継続)	180	幸福感を高める前向き思考が心身の健康に及ぼす効果の検討
〃	矢 倉 富 子 医 学 部 解 剖 学, 助 教	1,400	420	慢性疼痛に共感をもたらす回復機序の解明－認知行動療法の基礎的検討－
〃	佐 藤 麻 紀 医 学 部 生 理 学, 助 教	1,700	510	糖尿病患者および肥満者におけるアディポカインの季節差－光と運動による介入実験－
〃	室 谷 健 太 医 学 部 臨床研究支援センター, 講師	1,100	330	精神領域における早期診断法開発のための新しい臨床性能試験デザイン
〃	太 田 明 伸 医 学 部 生 理 学, 講 師	1,300	390	CRISPR/Cas9システムを利用した骨髄腫の悪性化に関わる分子機構の解明
〃	竹 内 幹 伸 医 学 部 脳神経外科学, 講師	1,300	390	頸神経根の微小循環動態(Micro-Circulation)の解明
〃	高 橋 靖 弘 医 学 部 眼 科, 講 師	2,100	630	ドライアイと眼瞼圧の関連の解明
〃	三 善 郁 代 看護学 看護学Ⅱ, 講師	1,000	300	経管栄養関連器材における衛生管理方法の調査～ガイドライン作成に向けて～
奨 励 研 究 (補 助 金)	萩 原 真 生 薬 剤 部, 薬 剤 師	500	0	多剤耐性緑膿菌に対する至適抗菌薬と投与経路の探索
〃	高 四 強 輸 血 部, 臨 床 検 査 技 師	600	0	間葉系幹細胞を安全利用するための保存後性状変化解析とそれに基づく至適保存法の確立

- ・研究種目及び課題番号順にて記載
- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「交付決定通知」及び「交付申請書」を基に作成
- ・平成27年6月までの転入転出を含む
- ・基金については、今年度請求額を記載

平成27年度厚生労働科学研究費補助金交付決定

平成27年度厚生労働科学研究費補助金が採択され、次のとおり交付決定がありました。

(金額単位：千円)

研究種目	研究代表者	直接経費	間接経費	研 究 課 題
慢性の痛み対策研究事業 (慢性の痛み政策研究事業)	牛 田 享 宏 医 学 部 学際的痛みセンター, 教授	34,200	10,000	慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究

- ・氏名は、e-Rad（府省共通研究開発管理システム）研究者登録名にて記載
- ・「国庫補助の交付基準額等について」及び「交付決定通知書」を基に作成

本学に関する新聞掲載記事（概要）をご紹介します。

＜産後ママの心をケア 臨床心理士ら講座＞

こころのケアセンター

うつ病や乳幼児虐待につながる恐れのある女性の産後の悩みを解消しようと、長久手市の愛知医科大病院が、臨床心理士らによる講座「ママと赤ちゃんのための心理学」を開設している。総合病院である強みを生かし、必要に応じて多様な科をまたいだ支援を提供。メンタルケアに特化した産後ケアの取り組みは近隣でも珍しいといい、利用者の評判も上々だ。

妊娠期の母親についてはこれまで助成付きの検診や母親教室などでフォローされていたが、産後間もない母親へのケアはそれほど重視されてこなかった。

「児童虐待による死亡はゼロ歳児が最も多く、産後の悩みが児童虐待につながることもある」。講座を担当する臨床心理士の酒井玲子さんは、産後ケアの必要性を強調する。

子どもを産んだ後に母親の心身を安定させる産後ケアは、市民団体やNPOなどを中心に数年前から全国各地に広まっていった。だが、大学病院が主体となり、メンタルケアに主眼を置く取り組みは全国的にも珍しいという。

講座は、愛知医科大病院の「こころのケアセンター」が昨年5月に開設。毎週水曜日に開く1時間の講座を計5回受けるプログラムで、酒井さんら臨床心理士や助産師が毎回違うテーマで講義する。

最大10組の母子を対象とし、参加者同士で悩みや不安を共有することも目的の1つ。参加者の状態に応じて、個別に小児科医や産婦人科医が対応することもある。

（2015年7月5日（日） 中日新聞朝刊掲載）

「中日新聞社許諾済」

＜愛好家グループ 押し花作品展示＞

愛知医科大学病院

長久手市の愛知医科大病院の3階病棟に、尾張旭市の押し花愛好家グループ「ぽこあぽこ」などの作品が飾られ、来院者の目を楽しませている。

同病院が尾張旭市文化協会に作品展示を依頼し、協会に属する「ぽこあぽこ」が手を挙げた。

アジサイやヒマワリの花びらや葉を並べ、城や花火を表現した作品15点が並ぶ。ほかにも、同協会に属する革工芸サークル「くちなし会」の会員による革製の壁飾りなどもある。

（2015年7月7日（火） 中日新聞朝刊掲載）

「中日新聞社許諾済」



人によりそい，地域に根ざし，世界へ突き抜ける

衛生学講座 教授 小林 章雄

【医学教育のグローバルスタンダードを目指して】 衛生学の意義

< 鷗外への青木周蔵の一喝 >

若く意欲にあふれた22歳の森林太郎（鷗外）は1884年10月11日，第一回陸軍派遣費留学生として衛生学研究のためベルリンに到着し，翌々日，当時41歳で皇帝からの信頼厚く，外交官として絶頂にあった青木周蔵公使と面会した。この時の印象がよほど鮮烈だったのか，鷗外は青木の言説を「独逸日記」に書き付けている。

「衛生学を修むるは善し，されど帰りて直ちにこれを実施せむこと，恐らくは難しかるべし。足の指の間に下駄の緒挟みて行く民に衛生論はいらぬことぞ。学問とは，書を読むのみをいうにあらず。欧州人の思想はいかに，その生活はいかに，その礼儀はいかに，これだに善く観ば，洋行の手柄は十分ならむといわれむ」もとより「衛生学などわが国には無用」との青木のこの言葉は，性急に多くの成果を望む若き鷗外を論す逆説でもあったろう。

青木周蔵は長州藩の医家の生まれで，郷党の名士，大村益太郎の知遇を得ていたが，彼らが西欧から学びとろうとする学術が兵学一辺倒であることに異を唱え「国家の必要とする学科は，独り兵学のみであろうか，いや医学及び衛生学は為政上最も緊要な学である」との自説を展開した。そして志ある青年たちが競って英，米，仏の3カ国のいずれかへの留学を希望したのに対し，青木は「蘭方医学の源流はドイツ医学にある」とみて敢然プロイセンへの留学を選んだのである。

明治初頭のこの時期，在ベルリンの日本人は青木その他に土佐出身の萩原三圭，佐倉出身で後に順天堂医院の3代目堂主となる佐藤進の3人の医学生のみであった。その後，普仏戦争におけるプロイセンの圧倒的勝利を機にベルリンの日本人留学生は急増して100名を超える規模となり，元来世話好きであった青木が先輩としてごく自然に留学生の監督の役目を務めるようになった。こうした時代の流れの中で鷗外は青木と出会ったのである。あの時代，青木周蔵が教示した「衛生学は為政上，最も緊要な学の一つである」こと，また衛生学における知識・技術は，時代と社会の思想，文化，生活，慣習，制度と分かちがたく結びついており，それらについての深い理解がまず求められることは，今日も不変である。そしてまさに，ここにこそ，医学・看護学生が衛生学を始めとするパブリックヘルス諸科学を学ぶ重要な意義の一つがある。すなわち，アウトカム・ベースで言うならば，「生

起する健康・疾病事象を様々な社会的背景の下で捉えることができ，また社会的諸関係への働きかけを職能の一部として柔軟に実践できるようになること」である。

わが国の社会は大きく転換し，生活保障制度の再編と地域包括ケアを中心とした新たな支え合いのシステムへの移行は不可避である。その時，医療者が独り視野狭く超然と医療技術を振りかざすことはできないであろう。時代は品位と節度（教養）のある「ふくよかな」医療者をこそ求めている。

本学における「行動科学」，「社会医学」，「パブリックヘルス諸科学」領域に課せられた教育的課題は広範かつ重大である。

【世界に発信する医学研究】

1990年代初頭、Lennart Levi教授率いるカロリンスカ研究所・ストレス研究部より帰国した私は、講座主任の堀部博教授にお願いして、講座の英文表記を「Hygiene」から「Health and Psychosocial Medicine」に変えて頂いた。当時、ヨーロッパを中心に力強く進展しつつあったストレス科学や行動医学、心理社会医学などの澆刺とした息吹を取り入れて、教室の方向性を定めようとしたのである。その後「Environmental Health」が加わり、現在の教室の基本骨格となっている。衛生学講座の研究内容を網羅的に紹介することはせず、まさにいま、蕾がふくらみつつある萌芽的プロジェクトに絞って素描することとする。

(1)「長久手・子どものしあわせ・プロジェクト」

妊娠届け出から中学3年生までの個人データを縦断的に蓄積するNBC Study (Nagakute Birth Cohort Study) を中核事業とし、それらのデータベースを共通の基盤としながら、子どもの健康・安全・豊かな成長をテーマに、しあわせなまちづくりを学術面から考究し、サポートしようとする試みである。様々な領域の専門家と地域との連携・協働を通じて、わが国有数の「子どものしあわせと健康、豊かな成長のための発信基地」が建設途上である。

(2)「衛生学・日本気象協会／コラボレーションプロジェクト」(リーダー：梅村朋弘講師)

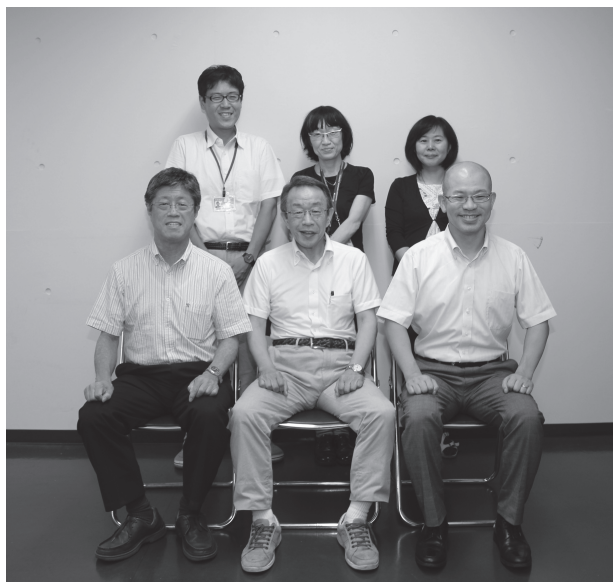
救急搬送データを用いた医学気象予報の開発研究に端を発した協働プロジェクトは、高齢者の入浴事故予防のための予知警告システムと機器の開発、住居の提案などに結実した。今後は疾病・傷害にとどまらず、気象と人々の保健・健康行動との関連を始め、生活に密着する諸領域での知見の集積（ビックデータの解析を含む）を展望している。また、本プロジェクト遂行のプロセスにおいて、健康・医療・福祉・介護領域での産業の新たな創造にも寄与しようと考えている。

(3)「幸せ・友好・共感・赦しなどポジティブな感情と健康との関連説明プロジェクト」(リーダー：松永昌宏講師)

これまでのストレス研究の成果を踏まえ、よりポジティブな感情に着目し、健康との関連メカニズムを医学生理学的・神経科学的に明らかにしようとするもので、実験室内のみならず、フィールド活動との連携も積極的に行って快進撃中である。中には、ホームレス状態にあるギャンブル依存者が、支援を得てその状態を脱し、自立した生活を送るようになるまでにfMRIからみた脳機能はどのように変化するかなどの難題に果敢に挑戦中である。

【講座からの一言】

「人によりそい、地域に根ざし、世界へ突き抜ける」という衛生学講座のビジョンとメンバーの気概に今後ともご注目とご支援を何卒宜しく願いいたします。



規 則

規則の制定・改廃情報をお知らせします。

病院規程の一部改正等

当院における栄養管理体制の中心的な役割を担う組織として体制を整備するため、愛知医科大学病院規程の一部が改正され、新たな中央診療部組織として「栄養治療支援センター」が設置されました。

施行日は平成27年6月1日

また、この改正に伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成27年6月1日

【新規制定】

- ・愛知医科大学病院栄養治療支援センター規程
- ・愛知医科大学病院栄養治療支援センター運営委員会規程

医学教育センター規程の一部改正等

医学教育の更なる改善・充実等を図っていくため、医学教育センターの組織が改組されることとなったことに伴い、次の関係規則が整備されました。

施行日は、いずれも平成27年7月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部附属医学教育センター規程
- ・医学教育センターの部門の組織等について

【廃止】

- ・愛知医科大学医学部医学教育強化推進委員会規程

医学部倫理審査実施規程等の一部改正

臨床研究に関する倫理指針等の文部科学省・厚生労働省告示等の改廃に伴い、本学における倫理審査体制についてもこれらに対応するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成27年5月1日

【一部改正】

- ・愛知医科大学医学部倫理審査実施規程
- ・愛知医科大学医学部倫理委員会規程

医学研究科履修規程の一部改正

愛知医科大学大学院医学研究科履修規程の一部が改正され、授業科目の名称が一部変更されました。

施行日は平成27年6月1日

看護学研究科特定行為研修管理委員会規程の制定

愛知医科大学大学院看護学研究科特定行為研修管理委員会規程が制定され、看護学研究科で行う特定行為研修を統括管理するため、「特定行為研修管理委員会」が設置され、同委員会の組織、任務等が定められました。

施行日は平成27年5月12日

卒後臨床研修センター規程の一部改正

愛知医科大学病院卒後臨床研修センター規程の一部が改正され、卒後臨床研修センターの副センター長の数が改められました。

施行日は平成27年6月1日

文書規程の一部改正等

本学における文書の取扱いについて整備すると共に、文書の保存に関し必要な事項を規定化するため、次の関係規則が整備されました。

施行日は、いずれも平成27年7月1日

【一部改正】

- ・学校法人愛知医科大学文書規程

【新規制定】

- ・学校法人愛知医科大学文書保存規程

構内における車両の規制に関する規程等の一部改正

本学における駐車場に関する事務管理体制等を現状に合わせ整理するため、次の関係規則が整備されました。

施行日はいずれも平成27年7月27日

【一部改正】

- ・愛知医科大学構内における車両の規制に関する規程
- ・愛知医科大学駐車場パスカード再発行等取扱要綱